

「第 21 回じんけんふれあいフェスタ」

じんけんふれあいフェスタは、高知県、高知県教育委員会、高知県人権啓発センターが主催し、様々な人権問題への意識啓発を目的とした県内最大規模（来場者数 8,000 人）の動員数を誇るイベントの一つ。今年は、2017 年 12 月 10 日の世界人権デーにあわせて開催された。一般市民だけでなく行政関係者も多く参加する。

（参考）

公益財団法人高知県人権啓発センターホームページ

「第 21 回じんけんふれあいフェスタ 開催しました。」

(<http://www.kochi-jinken.or.jp/wevent/?q=grp03|92> 2018 年 5 月 5 日閲覧)

じんけんフェスタに、RDD が初出展！



RDD 高知を主催する高知難病連も、(公財)高知県人権啓発センターの推薦を受けて、初出展をさせていただくことになり、翌年の RDD2018 の周知と難病患者・家族への理解を広げることを目的に初出展した。当日は、100 名以上の方がブースに立ち寄ってくださった。

<プログラム> 9:30~15:30

- ◇ RDD 啓発ポスターや各患者会の紹介ポスター展示
- ◇ RDD 啓発チラシの配布
- ◇ 有機栽培の野菜販売
- ◇ 小児慢性特定疾病児童等自立支援員による出張相談
- ◇ 難病ピアサポート相談

少しでも多くの人に、
理解が広がるように



具体的には、RDD 啓発ポスター・チラシ配布のほか、全国パーキンソン病友の会高知県支部のリハビリ畑で採れたさつまいもや大根の販売、JPA が共同開発した災害備蓄用パン「JPA パンダ!!」の展示販売などを中心に、難病や小児慢性特定疾病の相談などを実施した。

また、会場全体においては、子どもたちによる人権ミュージカルや病気や障害を持った仲間が踊るよさこい演舞、盲導犬体験など主催者が実施する様々なイベントが行われており、そこから流れてきた参加者を呼び込むことで、老若男女たくさんの人に RDD のことを知ってもらう機会となった。

この日の来場者数は公式発表で約 8,000 人だったが、これは人口減が進む地方においては相当に大きな動員数。それを裏付けるように、「実は私も家族が難病を持っていて・・・」という方や「症状に悩まされて病院に行ったがわかってもらえなくて・・・」といった方が時おりブースに立ち寄られ、相談や立ち話をしていかれた。

また、他の当事者団体や支援団体の方からも「こんな日があるんですね」と興味を持っていただき、単独主催ではなかなか手が届かなかった範囲まで、周知を広げることができたのではないかと感じている。

これからも手を取り合って活動を



現在、人権問題は多岐に渡り、国連や日本国の認める様々な人権デーが存在するが、「世界希少・難治性疾患の日（RDD）」は特に地方においては、まだまだ知られていない。

一般市民への周知はもちろんだが、同じように各課題に向き合っている他の当事者団体・支援団体や、県や市町村など行政機関に知ってもらえたことは、高知県においての大きな一歩になったのではないと思う。

来年もまた、「じんけんフェスタ」と「RDD in Kochi」の二本立てで、世界希少・難治性疾患の日の周知と患者・家族の医療環境や社会環境の向上に向けた活動を、積極的に継続していきたいと考えている。